

「第60回建築士会全国大会 京都大会」を終えて

衛藤照夫

第60回建築士会全国大会京都大会 主管
一般社団法人 京都府建築士会 会長



昨年12月8日、初冬の京都で、第60回建築士会全国大会京都大会が京都市左京区岡崎の京都市勧業館「みやこめっせ」で開催されました。まずは、全国大会出席のため京都までお越しいただいた来賓をはじめ建築士会、関係団体、ご友人ご家族など多くの皆様と企画実施に力を注いでいただいた会員の皆様に感謝いたします。また、協賛企業の皆様、主催の日本建築士会連合会、共催の近畿建築士会協議会、さらに関係団体の皆様の一方ならぬご協力に感謝いたします。

本当にありがとうございました。

さて、今回が「山とまちと木造建築」というテーマを掲げ、足掛け4年に亘る準備期間の末の大会実施となりました。建築を考えると、その材料となるものの産地を知り、流通を知り、暮らしを知り、共同体としてのあり方を考えることがこのテーマに凝縮しています。そしてこのテーマは、建築に携わるものとして、私たちの幸せな暮らしや共同体のあゆむべき姿にふさわしい道標となると考えます。

初期段階からテーマを設定したことにより、私たちは初年度から順次積み重ねるようにテーマに沿った年次のイベントスケジュールを組み、実施してまいりました。本番での「記念フォーラム」は、それらの活動をまとめたものであります。そしてテーマをこの大会で終わらせず、それぞれの参加者の皆様には、課題として持ち帰っていただき、なんらかの活動として引き継いでいただければ望外の喜びです。

テーマと共に大会の意義を考えると、長い時間をたゆまぬ準備を重ねてきた担当者の努力に思いを馳せます。私たちが目指したのは、大会実施運営に向けた準備や議論、考察、決断などが、それぞれの血となり肉となるように身につけていく過程を経ての「手づくりの大

会」です。そのためには、1人の指揮官のもとの一糸乱れぬ統率された動きと、むしろ、個々のメンバーがそれぞれの意思力を発揮し皆で共感・共有できる体制というものを理想としていました。言うは易く行うは難いこの考えを、黒木実行委員長をはじめとした実行委員は見事に実現してくれたと思います。

現実には、大会目前の10月11日には、思うように行かないことへの苛立ちなどが定例会議の席で噴出する局面もありました。しかし私も含め、大会運営にかかわったすべての人の胸には、終わってみればその苦勞の分だけ成果としての満足が広がった体験ではなかったでしょうか。

参加者の皆様からは、当日と後日にさまざまなお褒めの言葉をいただきました。3,800人も全国からの会員が一堂に会し、同じ時を過ごしたこの大いなる力の発露は、素晴らしい思い出の一幕です。過去には、今まで多くの全国大会に参加させていただき、その一つひとつが楽しくも有意義なものでした。それぞれの土地が有する歴史の厚みや人々の通じ合う気持ちを感じに出かけることができる全国大会。そういう意味で、毎年行われる他には得ることのできない力の結集は、全国の建築士会の会員の手ずからの成果だからこそ、長く続く感動と共感を呼ぶのだらうと感じます。

私たちの京都大会で、一つだけ自慢を許されるなら、私たちの大会も会員による手づくりの大会であったことだと思います。

最後に、次回の第61回「さいたま大会」の成功、全国の建築士会会員の皆様のご健勝ならびに「さいたま大会」での皆様方との再会を祈念申し上げ、第60回建築士会全国大会京都大会終了のご挨拶とさせていただきます。